



自然科学研究機構基金  
**活動報告書**

**NINS**  
National Institutes of Natural Sciences

**2026**

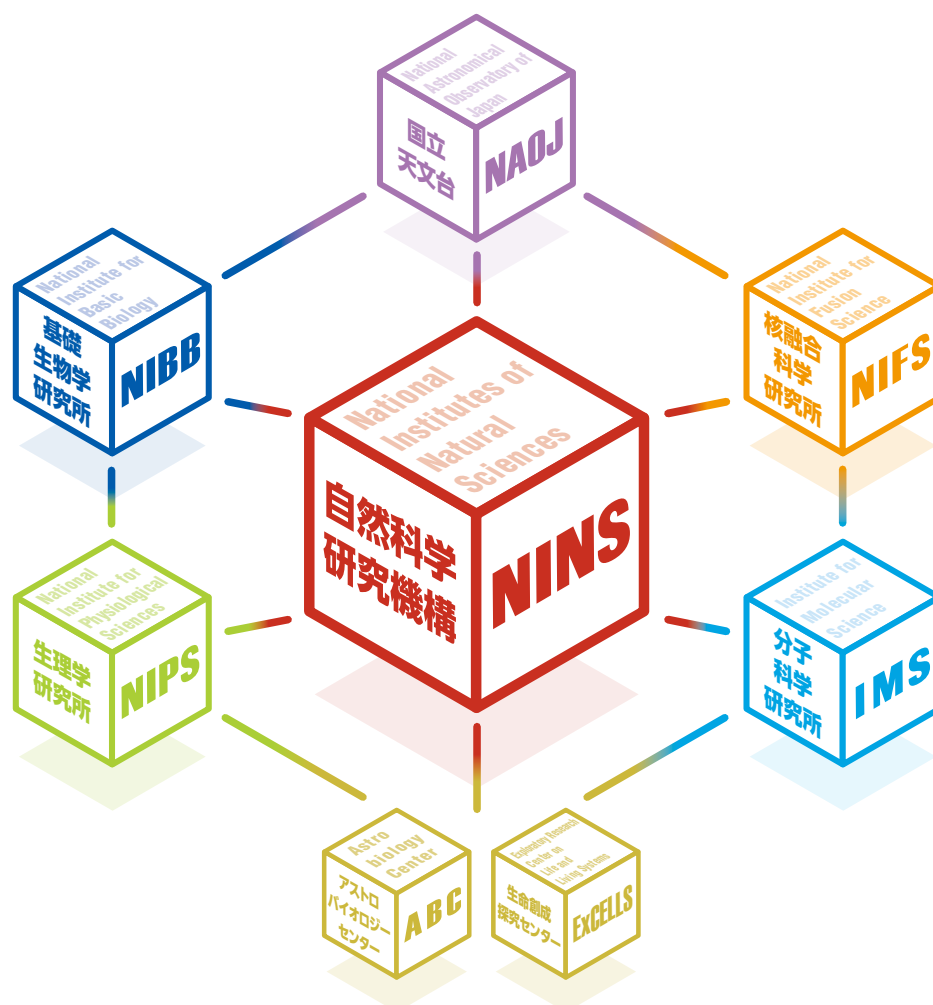
皆さまからのご支援に心より御礼申し上げます

---

## 基金の創設

自然科学研究機構は、国立天文台、核融合科学研究所、基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所の5つの研究所とアストロバイオロジーセンター、生命創成探究センターの2つの研究センターで構成されており、宇宙、エネルギー、物質、生命等に関わる自然科学分野の中核的研究機関です。また、大学共同利用機関として、保有する最先端設備の共同利用や先導的共同研究の場を全国の大学・研究機関の研究者に提供するとともに、研究者コミュニティの総意の下、それぞれの専門分野における最先端研究を推進し、我が国の研究力の向上と新たな研究分野の創成に大きく貢献しています。

一方で、大学共同利用機関法人は、その活動資金のほとんどを国からの運営費交付金等に依っていることから、近年、特に厳しさを増しております。そのような中で、将来に向けた自律的運営とその財政基盤を強固にし、新たな価値創造や卓越した人材の育成等様々な活動に資することを目指して「基金」を創設いたしました。広く国民の皆様、企業・団体の皆様にご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 基金の種類

寄付者のご意向に合わせて以下の4つの枠組みからお選びいただけます。

### ① 自然科学研究機構全体の支援（一般基金）

機構全体の研究活動・社会連携活動の基盤強化に活用します。

**主な用途** 共同利用・共同研究等プロジェクトへの支援、人材育成、国際交流活動、施設設備等の整備など。

### ② 研究所・センターを支援

各分野の専門的な研究拠点（国立天文台、核融合科学研究所、基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所、アストロバイオロジーセンター、生命創成探究センター）の活動を直接支援します。

### ③ 若手研究者の活動を支援（研究等支援事業基金）

次代を担う若手研究者が自立した研究者へと成長する支援に活用します。

**主な用途** 研究活動費、成果発表、研究者間交流の促進

**税制優遇** 若手研究者の活動への寄付は、所得控除に加えて「税額控除」を選択することが可能です。

### ④ 特定のプロジェクトを支援

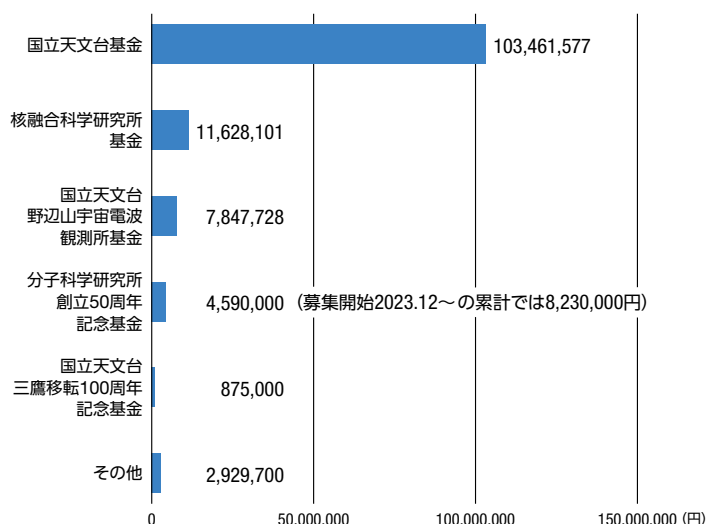
特定の研究施設や研究テーマ、記念事業の直接支援に活用します。

**主な対象例** 国立天文台野辺山宇宙電波観測所基金、研究所における周年事業記念基金、モバイルレーザー／耐熱材料開発プロジェクト（核融合科学研究所）など

## 寄付受入れ状況（2024-2025年度 寄付金額及び寄付件数）

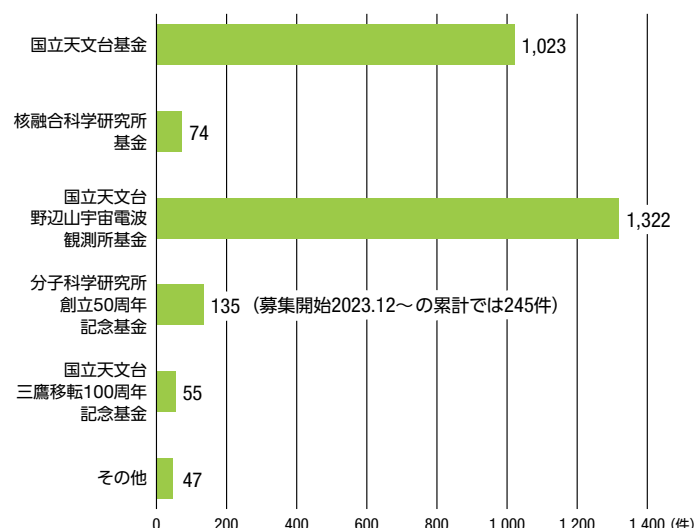
### ① 寄付金額

|        |        |
|--------|--------|
| 2024年度 | 82百万円  |
| 2025年度 | 50百万円  |
| 計      | 131百万円 |



### ② 寄付件数

|        |        |
|--------|--------|
| 2024年度 | 320件   |
| 2025年度 | 2,336件 |
| 計      | 2,656件 |



基金事業が発足（2021年）以来、基金残高は現在約6.5億円

# 周年記念行事・研究プロジェクト等における活動実績

自然科学研究機構では、特定の研究プロジェクトや周年記念事業への支援を目的とした基金を複数設けております。これらの基金に対して、多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。  
皆様からいただいたご寄付が、機構の活動にどのように貢献したのかご報告させていただきます。

## 国立天文台三鷹移転100周年記念基金

国立天文台は、前身の東京天文台が1924年9月に東京府北多摩郡三鷹村（現：東京都三鷹市）へ移転してから、2024年9月で100年となる節目を記念して、「国立天文台三鷹移転100周年基金」を創設しました。当基金へいただいた寄付を活用して、2024年9月1日に三鷹市公会堂光のホールにおいて三鷹移転100周年記念式典を開催しました。本式典は、長年にわたり国立天文台の活動を支えてくださった三鷹市をはじめとする地域社会および関係機関の皆様への感謝をお伝えするとともに、その歩みと成果を広く共有することを目的として実施したものです。当日は、国立天文台長による式辞のほか、関係機関代表や来賓による祝辞が述べられ、三鷹



三鷹移転100周年記念式典

市への感謝状の贈呈も行われました。さらに、日本の天文学や宇宙研究の発展をテーマとした記念講演が実施され、多くの一般参加者にもご来場いただき、天文学への理解と関心を深める機会となりました。本記念式典を通じて地域社会との連携の重要性を再確認するとともに、今後も引き続き、天文学の普及啓発や研究基盤の発展に資する取組を推進してまいります。



移転当時の国立天文台



現在の国立天文台正門

## 国立天文台野辺山観測所基金

野辺山宇宙電波観測所では、独自の特典を揃えた基金を2025年4月18日に開始いたしました。開始後3日間で80件のご寄付をいただくなど大きな注目を集め、2025年度は1309件、7,640,728円をお預かりいたしました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。皆様からいただきましたご寄付は、観測所内の傷んだ解説パネルの更新や、大学院生の国際会議への旅費支援、野辺山天文台展の開催経費など、野辺山宇宙電波観測所の研究・教育・普及活動を効果的に実施するために使用させていただく予定です。



更新した解説パネル



## 分子科学研究所 創立50周年記念基金

分子科学研究所は、1975年に創設され、2025年に半世紀という節目を迎えるにあたり、「創立50周年記念基金」を設置させていただき、ご賛同いただいた多くの皆様から多大なご支援を賜りました。いただいたご支援等に基づき以下のような記念事業を実施いたしました。

2024年4月からは、1年間に亘り地元FM局エフエムEGAOの「EGAO FRIDAY SCIENCE LAB.」に分子研スタッフが月に1回ゲスト出演し研究所や業務の紹介のほか50周年の告知などを行いました。

2024年12月には50周年特別企画として、近隣高校の生徒を招いて収録した「ノーベル物理学賞受賞・天野浩教授×分子科学研究所・藤田誠卓越教授による特別対談」の公開を行いました。

2025年には、分子科学研究所の設立が決まった法案の成立日(1975年)4月22日に記念式典、特別講演、祝賀会のほか施設見学も開催を行いました。

式典には、文部科学省研究振興局長、名古屋大学総長、愛知県知事(代理)、岡崎市長、総合研究大学院大学長をはじめ、関係者約300名の方々にご臨席賜りました。来賓の方々からは、分子科学研究所のこれまでの研究成果に対する祝辞とともに、今後の更なる発展への期待が寄せられました。

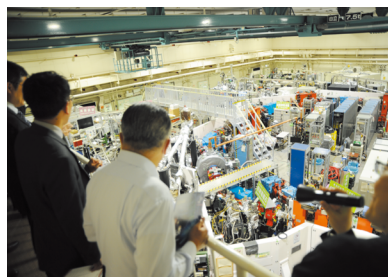
特別講演では、10月にノーベル化学賞を受賞された北川 進先生(京都大学 理事(研究推進担当)・副学長/高等

研究院特別教授)が「The Magic of Small Spaces ―ナノ空間と材料化学が紡ぐ50年の物語―」と題して、ご講演をしていただきました。

この他に、分子研のいま・分子研のこれまで・50年記念企画などをまとめたホームページ(<https://www.ims.ac.jp/50th/>)の立ち上げ、記念誌の発行、小中高生向けの「分子ポスター」の配布や元素検定の実施のほか、50周年記念特別版として一般市民向けの市民公開講座(分子科学フォーラム)や自然科学研究機構シンポジウムの開催などを行いました。



分子科学研究所 創立50周年記念式典



50周年記念式典における施設見学の様子

## 寄付者様からの応援メッセージ

**日本電子株式会社 代表取締役社長兼CEO 大井 泉 様**

分子科学研究所の創立50周年、心よりお祝い申し上げます。半世紀にわたり分子科学の新領域を切り拓いてこられたご業績は、学術・産業の双方に大きな指針を示してられました。

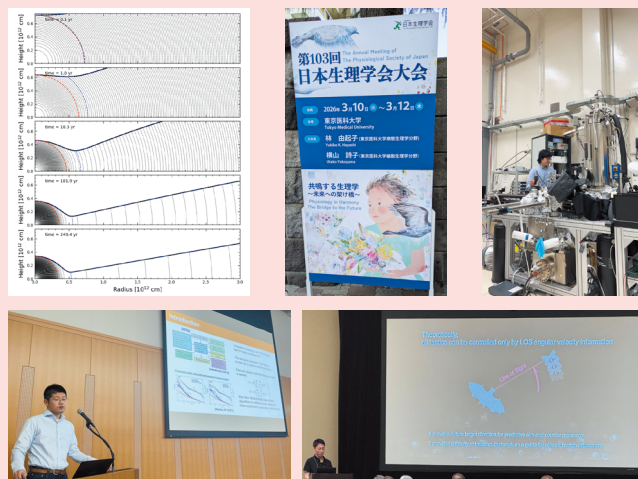
弊社は電子顕微鏡、核磁気共鳴装置、質量分析装置などの最先端分析計測分野を通じ、貴所の挑戦と発展に引き続き貢献してまいります。今後のさらなるご飛躍をお祈り申し上げます。



## 若手研究者への支援

自然科学研究機構は、若手研究者の育成を目的として、当機構に所属する研究者または機構と共同利用・共同研究に参加する他機関の研究者の中でも特に、優秀な研究成果を挙げた若手研究者を対象に、毎年「自然科学研究機構若手研究者賞」の授与を行い、本基金より1人あたり10万円を支援しております。

皆さまからのご寄付により支援を受けた研究者の声を紹介いたします。



上段左：開発したシミュレーションコードによる計算結果（高橋先生）  
上段中央：参加した日本生理学会大会（米田先生）  
上段右：光照射機能を備えた走査プローブ顕微鏡装置を使用している様子（塩足先生）  
下段左：国際学会での成果発表の様子（前山先生）  
下段右：コウモリに関する研究成果発表の様子（西海先生）

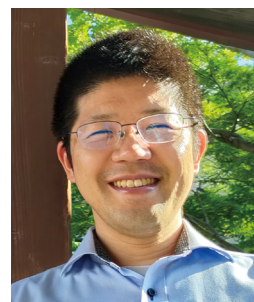
### 高橋 亘 国立天文台 助教

私は、理論を用いて天文学の研究をしている理論天文学者です。物理学の知識を使って天体のふるまいを表す数式をつくり、それをコンピュータで解くことで、宇宙にあるさまざまな天体の性質を調べています。理論研究には、観測だけでは直接知ることが難しい天体の内部構造や、長い時間をかけて起こる進化の様子を明らかにできる面白さがあります。このような研究では、性能のよいコンピュータを使うことがとても重要です。大きな計算を行う計算機だけでなく、手元のパソコンも、シミュレーションコードの開発や計算結果の解析、図の作成に欠かせません。今回の研究費では、新しいパソコンを購入させていただきました。以前よりも快適に研究を進められるようになり、試行錯誤もしやすくなって、研究の効率も大きく向上しました。このたびの自然科学研究機構基金によるご支援に、心より感謝申し上げます。



### 前山 伸也 核融合科学研究所 准教授

私は、将来のエネルギー源として期待されるフュージョンエネルギー（核融合エネルギー）の研究を行っています。中でも、プラズマの閉じ込めを難しくする要因の一つである、プラズマ中に自発的に生じる乱流現象に注目し、スーパーコンピュータを用いた数値シミュレーションによってその性質を調べるとともに、理論的手法やデータ科学的アプローチを取り入れたモデリングにも取り組んでいます。若手研究者賞の副賞としてご支援いただいた基金を活用し、国際学会AAPPs-DPP2025において、新たに展開しているマルチフィデリティ乱流輸送モデリングの研究成果発表を行うことができました。また、既存の乱流輸送モデルの課題を補う新たなモデル開発を目指し、関連文献の購入にも使わせていただきました。今回の受賞を励みに、今後も研究を着実に発展させていきたいと思っています。



**西海 望** 新潟大学 特任准教授

いただいた若手研究者賞副賞については、主に国際学会参加を含む出張旅費に使用させていただきました。中でも、米国で開催された音響学系の国際会議「Sixth Joint Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan」には招待講演として登壇し、若手研究者賞の記念講演でも言及したコウモリのエコーロケーションに関する研究成果を発表することができました。コウモリのエコーロケーション能力は行動学の初期から盛んに研究され、高校の教科書にも載るような目覚ましい成果が得られてきました。その研究の歴史を築いてきた著名な研究者達の前で、新たな成果を紹介することができ、そして興味を持っていただけたことは、私の研究人生の中で大事な到達点になったと思います。そしてそこでの交流から、当分野トップレベルの研究者のもとへ訪問する機会をいただき、今後研究を発展させていくための素晴らしいきっかけになりました。

**米田 泰輔** 生理学研究所 助教

このたびは、自然科学研究機構基金によるご支援を賜り、誠に感謝申し上げます。私は、生後の環境に応じて脳神経回路がどのように形成されていくのかを理解することを目指して研究しております。ご支援いただいた研究費は、関連分野の学会への参加および研究発表に活用いたしました。学会では、自身の研究成果を発表するとともに、さまざまな分野の研究者と意見交換を行うことができ、研究の意義や今後の展開について多くの示唆を得ました。特に、研究内容を異なる視点から見直す機会を得られたことは大変有意義であり、今後の研究を進めるうえで大きな励みとなりました。本支援によって得られた経験と知見を今後の研究活動に生かしていきたいと考えております。

**塩足 亮隼****マックスプランク協会フリッツハーバー研究所 グループリーダー**

私は、分子科学研究所との共同研究によって、ナノスケール以下の非常に狭い空間に閉じ込めた光である「近接場光」によって分子物性を測定する研究を行ってきました。低温環境で鋭い金属針（探針）を試料に近づけてスキャンする走査プローブ顕微鏡装置を用い、探針にレーザー光を照射することで高度に制御可能な近接場光を実現しました。この度、若手研究者賞の副賞の研究費によって新しい試料基板を入手し、それを用いて「極小光学」の実験研究をさらに推進することができました。海外所属である私に対しても、国内の研究者方と同等に本研究費をご支援くださいましたことに深く感謝申し上げます。このような柔軟なご支援制度は海外の研究者にとって貴重であり、日本との国際連携の更なる活性化をもたらすものであると確信しております。





## ご寄付の手続きのご案内

公式サイト: <https://kikin.nins.jp>

自然科学研究機構は、学術研究の発展や若手研究者支援のため、皆様からの温かいご支援を募っております。



### オンラインでのお手続き(クレジットカード決済)

- ① **お申し込み**: 公式サイトの「寄付受付フォーム」に必要事項を入力してください。  
一般基金、研究等支援事業基金、各研究所の基金等から寄付先を選択可能です。
- ② **領収書の送付**: 入金確認後、お礼状と領収書をお送りします。
- ③ 月々の継続寄付も承っています。毎月25日に自動決済されるシステムです。停止・変更は毎月20日までに基金事業室へご連絡ください。

### お振込みでのお手続き(銀行等の窓口・ATMからのお振込み)

- ① **お申し込み**: 指定の「寄付申込書」(PDF/Word: HP 参照)に記入し、郵送またはメールにて送付してください。
- ② **受入通知**: 申込確認後、担当部署より「振込依頼書」をお送りします。
- ③ **お振込み**: お手元に届いた振込依頼書を用いて、金融機関でお手続きください。
- ④ **領収書の送付**: 入金確認後、お礼状と領収書をお送りします。

### 遺贈・相続財産からのご寄付

大切なご遺産を、ご遺志に沿って機構の活動に有効に活用させていただきます。

- ・ **遺言によるご寄付(遺贈)**: 遺言書に従って、ご遺産を当機構に指定いただけます。受領した財産に相続税は課税されません。

**次の提携先(相談窓口)も活用できます**: 三井住友銀行、岡崎信用金庫、READYFOR遺贈寄付サポート

- ・ **相続財産のご寄付**: 故人の遺志を継ぎ、相続された財産からのご寄付いただけます。相続税の申告期限内(10か月以内)の寄付であれば、その分に相続税は課税されません。

### 紺綬褒章(国からの褒章)

当機構は内閣府より認定を受けた公益団体であり、以下の条件を満たす寄付をいただいた際、文部科学省を通じて紺綬褒章の授与申請が可能です。

- ・ **対象**: 公益のために私財を寄付した個人・法人
- ・ **寄付金額**: 個人: 500万円以上、法人等: 1,000万円以上

※事前申出による分納での寄付も対象となります。

### 税制上の優遇措置

当機構への寄付は、確定申告により税制上の優遇措置を受けることができます。

- ・ **所得控除**: 寄付金額(総所得の40%上限)から2,000円を引いた額を所得金額から控除。
- ・ **税額控除**: 寄付金額の一定割合を所得税額から直接控除(研究等支援事業基金のみ対象)。

※研究等支援事業基金への寄付は、所得控除か税額控除の有利な方を選択可能です。

- ・ **手続き**: 本機構が送付する「領収書」および「税額控除に係る証明書(写)」を添えて確定申告を行ってください。

### 【お問い合わせ先】

自然科学研究機構 基金事業室

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-3-13 ヒューリック神谷町ビル 2F  
Tel: 03-5425-1325 Email: [nins-kikin@nins.ac.jp](mailto:nins-kikin@nins.ac.jp)